

市民・行政の自己評価分析

協働 大きな成果

一関 地場産食材などを活用した「学校給食レシピコンテスト」の表彰式は1日、一関市竹山町の市役所で行われた。大賞には「地産地消部門」で千田歩実さん(中里小5年)の「夏野菜でパ

ワーアップ」、「給食でこれを食べたい!部門」で岩淵一真君(涌津小5年)の「さばの水煮缶で和風トマト煮込み」が輝いた。

コンテストは市教委が、地場産食材への関心を高め、でもらおうと初開催。市内

北上市が、市民と行政による協働事業を対象に初めて実施した第三者評価の検証結果がまとまった。市、協働相手側ともにほぼ仕様書以上の内容で事業が行われたと総括したが、各事業の検証については不十分と評価した割合が高かった。

北上・初の第三者調査

第三者評価は協働事業の実施状況客観的に分析し、質の向上を図るのが狙い。市から受託したNPO法人政策21(盛岡市)が、2017年度に協働で行われた北上市の105事業を対象に担当課と延べ471の協働相手の組織にアンケート調査し、協働相手は326組織が回答した。

「事業計画」「目的実現」など13項目の自己評価を求めた。評価は仕様書通りの実績を上げた場合をAに、それ以上をSとA、それ以下をBとCの5段階とした。

「総合評価」でA以上の評価は市側が99・6%、協働相手側は市側が約60人が出席し検証

「五輪仕様」

一関 一関市室根町の室根市民センター(小魚肉ソーセージ、キュウリをのせました。東京五輪にちなみ5色の具材を酢飯で巻き、五輪カラーに仕上げた。健康な1年にしたいと願いを込めた河合野ノ花さん(室根東小4年)は「普段は使わない紫キャベツが入って、おいしくできた」

地域の親子ら25人が参加。テーブルの上に酢飯を敷き、紫キャベツの掛け声でのり巻きを持ち上と出来栄えに満足した。

完成すると子どもたちは「せーべつが入って、おいしくできた」

ツの酢漬け、かんぴょう、卵焼き、ぎて喜んだ。今年の恵方の西南西を向いて食べた。

事業検証は不十分



報告会で事業の振り返りや課題共有による改善の重要性を指摘する熊谷智義副理事長(中央)

自由記述では高齢化などで事業継続を不安視する声も多かった。政策21によるその後の聞き取り調査で、担当課と協働相手のコミュニケーションの善しあしが事業評価の高低に影響していることも分かった。

北上市内で1月31日、協働相手の代表ら約60人が出席し検証

の報告会が開かれた。政策21の熊谷智義副理事長は協働相手側が持つ専門性発揮と活動への幅広い参加が大きな事業成果を上げたと説明し、情報共有や人材

地城福祉 一つにしと各社会

特産牛の 藤田さん

ふるさと

奥州

協(後藤元夫) 回(後藤元夫) 研究会は1月、東京都港区のなどで開かれ、柳の藤田牧子 優秀賞に輝い

最優秀賞の表 田栄さん(左)